

令和8年度第1回大垣市図書館協議会会議録（要旨）

- 1 開催日時 令和8年7月17日（金）13時00分～14時30分
- 2 開催場所 大垣市立図書館3階 会議室
- 3 出席者
（委員）
田村 弘司会長、石橋 豊之副会長、近藤 則朗委員、高木 美保委員、
山田 文子委員、山本 学委員
（事務局）
馬淵教育委員会事務局長、安江図書館長、大江図書館主幹、長瀬図書館主幹、桐山図書館主幹
- 4 傍聴者 1名
- 5 次第
 - (1) 報 告 ①令和7年度の事業報告について
②令和8年度図書館の利用に関するアンケート調査の結果について
 - (2) そ の 他 大垣市図書館名誉館長の委嘱について ほか
- 6 主な発言
 - (1) 報告事項① 令和7年度の事業報告について
（委員）
資料を見ると、館内展示をたくさんやっているが、小さい子やお母さん向けの啓発がもっとあるといい。「読書感想文の書き方」や「自由研究のすすめ方」は参考になるが、読書の大切さや、面白い本の紹介などが共有できるような展示があると広がっていくと思う。
（事務局）
この資料には載せていないが、児童室でも展示はしている。セカンドブックを紹介するチラシなども配布し、継続的に本を読めるように働きかけている。今後は、会議資料に子ども向けの展示実績も載せるようにする。

（委員）

子ども向けにも、すごく素敵なことをやってもらっている。それを広報で市民に伝えてほしい。

（会長）

私は協議会に出席しているので、図書館がたくさんの事業をやっていることがわかるが、市民はそれをどうやって知るのか。わざわざホームページで調べる人はそういない。どのように広報するのが大事。

（委員）

もったいないと思う。もっと市民の皆さんに知ってもらいたい。

（会長）

永遠の課題かも知れないが、いかに広報していくか。読書講演会なども、開催後に新聞で知って、行けばよかったと後から思う。一般の新聞は開催後の報告しか載せない。いろいろなところで検討してやってもらいたい。

（委員）

情報を手に入れられる人が偏っているということはないか。

（事務局）

ホームページなどで情報を出しているだけでは、市民がその情報を取りに行ってもらわないと難しい。どの分野でも同じだが、課題だと思う。

（会長）

大垣駅にはデジタルサイネージができた。

（事務局）

大垣駅のデジタルサイネージは、何か行事があるときに、担当部局に依頼して載せることができる。通りすがりの人に見てもらえるようにするのは非常にありがたい。今までは紙しかなかった。

（会長）

バス停の前などに情報を掲載できれば、バスを待っている間に目に入る。そういうこともできるといい。図書館の前で情報を流しても、図書館に来ない人には情報を届けられない。

（副会長）

SNSも図書館に来ている人しか登録していないと思う。他の図書館ではフォロー一数が4桁のところもある。

（会長）

図書館の立地的にも問題がある。小牧の図書館は、小牧駅に行く人が図書館の中を通っていく。電車の待ち時間にちょっと座っているだけで情報が入って来る。大垣の

図書館は大垣駅から少し離れている。

（委員）

最新の小牧の図書館と比べても、大垣は職員の努力と工夫でよくやっている。小牧の図書館はスペースが広くて、ゆったり本を選べる。大垣の場合は、限られたスペースの中で蔵書が増えていき、十分なスペースがないため工夫が必要になる。そこから違いが生まれると感じた。大垣の図書館は、2階のトイレ前スペースも活用していることに感心した。

（会長）

建物を新しく建てるのは難しいにしても、今ある建物の中で工夫するとか、構成を見直すことなどはできるかも知れない。

（委員）

少し構成を変えて違うスペースにするだけでも、賑わい感が出ると思う。

（会長）

小牧の図書館では、フロアの隅に、子どもが秘密基地のような空間で本を読める場所があった。あのようなものは建物を建てなくても再現できる。

（委員）

本棚が平行に並んでいるだけでなく、何か工夫できないかと思っている。そういう工夫でリニューアル感を出せることもある。その場合、図書館は1週間くらい休まないといけませんが、せっかくだくさん本があって、みんなが集まってくる図書館だから、もう一工夫するならそこかと思う。

（会長）

個人的な家でもリフォームすると見違える。全体を変えなくても、リニューアルはできる。

（委員）

そうすると本棚の配置がバラバラになって、本を借りに来た人が迷う。でも、図書館に来て本を探すのも面白い。

（会長）

ワクワク感がある。図書館全然変わらないよってより、変化があった方がいい。場所は変えられないけど、中身は予算を取って変えられる。できることはあると思う。

（委員）

金はかからないけど、労力にかかる。ボランティアを募ってやるのも一つの方法。いくら立派な施設があっても、人材が大事なのは変わらない。

(2) 報告事項② 令和8年度図書館の利用に関するアンケート調査の結果について

(委員)

(アンケート結果の) 個人的な意見には、流してしまってよいものもある。

(会長)

以前は、駐車料金を安くしてほしいという意見もあったが、2時間無料になってよかったと思う。市も大変努力したのだろう。

(委員)

(駐車料金を) 完全に無料にすると、駐車場代わりにする人が出てくるのでやめた方がよい。

(事務局)

意見の中には、駐車場がすぐ満車になるので、無料の時間を、2時間から1時間に短縮したら回転が良くなるというものもあった。

(委員)

イベントがあると満車になるのは仕方がない。アンケート結果を見ると、図書館の滞在時間はそれほど長くない。主な利用目的は、館内でじっくり本を読むより、本の返却・貸出のみの方が多い、年齢的にも高齢者が多い。

(会長)

返却については、南部と駅北のサービスセンターでも本を返却できるようになったので便利になったと思う。いろいろ努力してもらっている。

(副会長)

アンケート結果にはいろいろな意見があるが、どうしようもないもの、対応できないものも多いと思う。

(委員)

全般的にみて図書館の利用については満足している人が多いと思う。ある程度満足していることがデータから読み取れる。

(委員)

「どちらでもない」まで入れれば、ほぼ90%の方が満足している。努力の賜物だと思う。見ている人は見ている。

(会長)

この協議会とは別に、評価委員会があるが、アンケートでこれだけ高評価なので、自信を持って評価を受けられる。

(事務局)

図書館の情報をどこで知りましたかという設問について、今の若い母親はSNSを一番見ている。SNSをもっと活用することで情報を伝えられる。

(会長)

広報でいえば、保育園や幼稚園を通じて園児（の保護者）に情報提供してもらうことはできないか。小学校・中学校も同じだが。

(事務局)

今、親子手帳がアプリになっており、対象年齢の保護者に、年代別に情報提供できる。そのような世代に、欲しい情報をピンポイントに伝えられる仕組みを活用して、みんなに知ってもらいたい。

(会長)

市内の小学生全員が、図書館だけでなく公共施設を見学に来るようになるとうい。図書館の近くに住む子はいいが、遠くに住む子はなかなか来られない。でも一度図書館に来たことがあれば、近くに感じるができる。

(委員)

子どもが小学校にいるので、(図書館の) 学習室の話を聞くことがある。やはりマナーが悪くて騒ぐ子があり、子ども同士では注意するのも難しい。今は、学習室の受付等はないと思うが、小牧の図書館は(学習室が) 予約制で、申請によって使うことができた。個人情報という意味ではどうかとも思うが、責任もって使えるという意味では少しいいのではと思う。デリケートな問題かも知れないが、みんなが気持ちよく使えるようになるとういといつも思っている。

私は大垣から出たことがないので、図書館で勉強できるのは当たり前とっていたが、よそに行ったら、図書館に学習室があるとういとう驚かれることもある。それはありがたい環境だとういことをもう少しアピールしてもいいのではないか。

子どもはタブレットとか動画とか、楽しいことに流れてしまう。本を読まない子が増えるとういのは危機的な状況だとうい。なんとか本の良さ、本から得られるものとか、そういうものを届けられたらとうい。自分の子どもには何とか言えるが、みんなもそうなってほしい。(図書館に) 来てもらえたら、もっと良くなるとうい。

あと、スーパーに行くと、店に対する要望とその回答が掲示してあるところがある。要望に対して、すでに店が対応したこともあるし、現実的でない意見に対しては、代わりにこういことはできますとか、これは検討しますとか、意見を言った方にリターンがある。これでちゃんと対応していることが感じてもらえるとうい。なかなか対応の難しい意見もあるとういと思うが、ぜひ返事をするとういとうい。

(会長)

なるほど、その通り、確かにスーパーなどに(要望と回答が) 貼ってある。旅館などを利用して、そのようなことがある。あれがあると真摯に対応したことが伝わる。アンケートもやるだけでなく、回答を返していくことも重要。

（委員）

明日から夏休みなので、図書館の学習室もいっぱいになるのか。

（事務局）

学習室に加え、この会議室も小中学生が勉強できるように開放する。学習室で高校生や大人に混じって勉強するのはちょっと大変でも、この会議室では、保護者と子どもと一緒に喋りながらやってもいいことにする。

（委員）

最低限の使用上の約束を書いた利用カードのようなものを用意し、その約束を守ってやりますというのを利用者が自分で書いて、カードを持ってここ（会議室）に来て申請したうえで利用するような制度があってもいいと思う。そうすることで、この場所は遊び場所とは違うという意識を持って使える、勝手に来て好き勝手やって帰る場所じゃない学習の場所だと、そういう意識を持って使ってもらいたい。

（会長）

図書館にもコーヒーショップのようなくつろげる場所があるといい。アクアウォークの本屋にも、ゆったりコーヒーを飲みながら、くつろいで本を読める場所を併設している。岐阜県図書館の場合は喫茶店が入居しては退店しており、なかなか経営が成り立たず難しいようだ。

（委員）

スイトピアセンターの場合、文化会館の1階にホワイエがある。そこで食事をする人はいるが、図書館からは離れている。そこ（図書館東側）の木を切って、中庭をウッドデッキみたいにして、コーヒーを飲めるといいと思う。柳津のカラフルタウンは、本屋の横がスターバックスになっており、コーヒーを飲みながら本が座って読める。

閉会 14:30